

施工段階		外構		11	設備工事：	シート番号 11-1
電気	空調	衛生	その他		外構配管設備工事検討	
○	○	○	—			

ポイント

■インフラのチェック

- ・給水・排水・ガス・電気・電話などインフラ引込み位置や埋設高さ等総合的に検討します。
- ・役所や電気事業者等との事前協議事項を確認し、引込み工事時期及び申請時期の確認をします。

■埋設深度

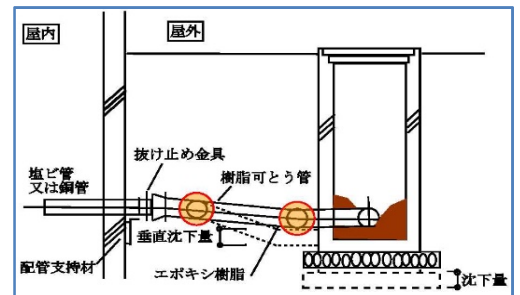
- ・重量車両が通る部分などはなるべく避けた配管ルートを検討します。
- 凍結深度や重量物の影響を考慮した埋設深度にて計画しましょう。

■地盤沈下対策

- ・地震により設備配管の建物への引込み部で破断、沈下によるずれが生じる恐れがあります。
- 変位吸収管継手の設置や躯体スラブからの支持、杭の設置まで検討が必要です。

■建物周囲の工事時期

- ・敷地境界と建物の間が狭い場合、建物が出来てしまうと、その周囲の工事は非常にやりにくくなります。
- また、山留め壁との干渉などを確認し、工事時期を事前に計画しましょう。先行配管工事を行う場合は、工事中の重量車両ルートも考慮しましょう。



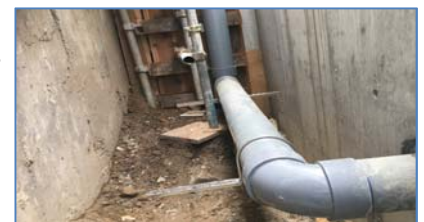
例) 地盤沈下対策要領図

先輩アドバイス

- ・インフラ引込み工事の時期と申請時期の早期確認をおこなひましょう。
- ・インフラの埋設深さ、重量物等の埋設深度、建物への引込み部を総合的に調整しましょう。
- ・外構（植栽）計画も考慮したルートとしましょう。
- ・早期に建築担当者と協議し外構配管工事時期を調整しましょう。

チェック項目

- インフラ引込みの集中する場所は取合い出来ていますか。
- 申請時期は間に合っていますか。
- 埋設深度・勾配（凍結・重量車両など）を確認しましたか。
- 地盤沈下対策は行っていますか。
- 建物周囲は問題なく施工できますか。



例) 建物周囲の配管工事

失敗すると...

- ・表層解体後の配管工事のやり直しになります。
- ・インフラの接続不良による配管工事やり直しになります。

配管埋設深さ

車両道路	一般部	寒冷地
600mm以上	300mm以上	凍結深度以上

例) 埋設深度

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	○	○	○	○	—	○	○	○	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂		